

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成21年度採択)

中間評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
21-3	複合データによる道路サービス・パフォーマンス情報システムの研究開発	筑波大学大学院 教授 石田 東生	C
<p>&lt; 研究の概要 &gt;</p> <p>路側観測による交通データとプローブカー調査データを融合し、従来よりも広域かつ高精度で多様な道路パフォーマンス情報を安価に提供可能なシステムを開発する。さらに、それを活用した政策支援アプリケーションについて提案する。</p> <p>&lt; 中間評価結果 &gt;</p> <p>特記事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。</p> <p>&lt; 修正内容 &gt;</p> <p>研究の進捗状況を鑑みるに当初の目標全ての達成を目指すことは厳しい状況と判断されることから、定点観測データとプローブカー調査データの特性分析の結果を踏まえた複数データを融合した道路パフォーマンス指標の作成に焦点を当てた計画に変更いただきたい。</p> <p>&lt; 今後の研究計画・方法への指摘事項 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進捗工程を厳格に管理の上、推進いただきたい。最終報告書においては、研究の目的、内容、意義、有用性を具体的かつ明確に記述いただきたい。</li> <li>2. 道路行政支援のためのアプリケーションにおいて、道路行政への適用を見据え、複合データを用いることによって達成できる実務的な事柄を整理いただくとともに、行政担当者とコミュニケーションをとりながら研究を進めていただきたい。</li> <li>3. 今後の取りまとめにおいて、新たなパフォーマンス指標の利点等を含む本研究の有効性について、従来手法（例えば道路交通センサ調査）との比較の観点から、具体的な事例イメージ等を用いて明確にしていきたい。</li> <li>4. 目的はかなりマクロな（時間的にも空間的にも）観測をプローブデータで行い、従来の路側観測データと比較し、組み合わせることを意図していると思われるが、メソスケールモデルを間に入れる等の方法論の導入について検討いただきたい。</li> </ol>			